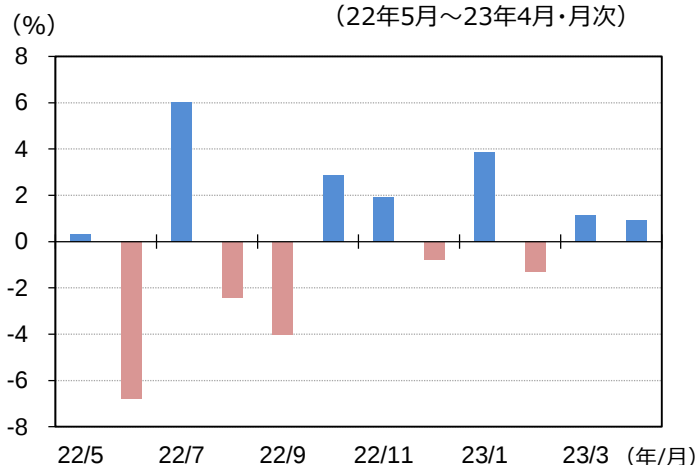


4月の米国ハイールド債市場インデックスは上昇

上旬は、原油価格の上昇や、米景気の悪化懸念といった材料が交錯する中、相場はもみ合いでした。中旬は、米CPIの伸び下振れなどを受け米インフレ圧力は緩和しているとの見方から上昇した後は、FRB高官のタカ派的な発言や、米景気の悪化懸念を受けて上昇幅は縮小しました。下旬は、米一部地銀の経営不安が再燃したものの、リスク選好が強まり、上昇しました。

米国ハイールド債の月間騰落率の推移

(22年5月～23年4月・月次)



米国ハイールド債の対米国国債スプレッド*の推移

(22年4月末～23年4月末・日次)

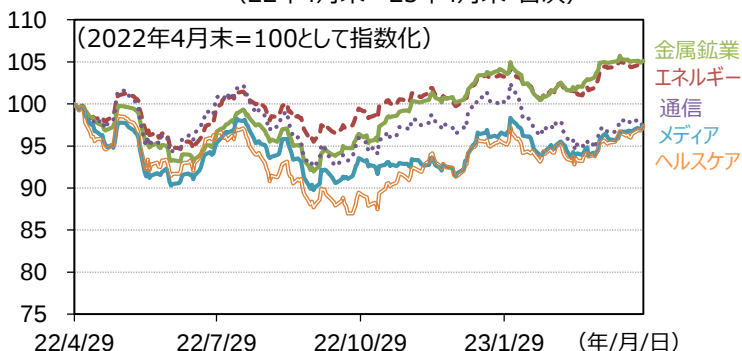


*対米国国債スプレッドはOAS（オプション・アジャステッド・スプレッド）。
繰上償還を考慮した米国国債との利回り格差のこと。

4月の米国ハイールド債主要5業種の値動きはヘルスケア（2.04%）、メディア（1.74%）、エネルギー（0.92%）、通信（0.85%）、金属鉱業（0.20%）の全てが上昇しました。

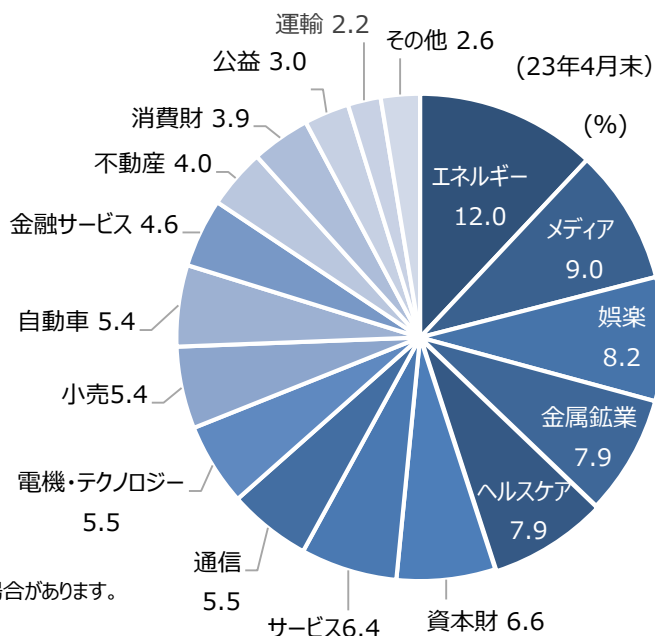
米国ハイールド債の業種別の推移

(22年4月末～23年4月末・日次)



※セクター別のインデックス：ICE BofA・US・キャッシュ・ペイ・ハイールド・インデックスのセクター別インデックス

米国ハイールド債の業種別構成比率



出所：ブルームバーグのデータをもとにアセットマネジメントOne作成
※業種別構成比率は、小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。
※使用した指数はP.4「当資料で使用している指数について」をご参照ください。
※上記は過去の情報であり、将来の市場動向を示唆・保証するものではありません。

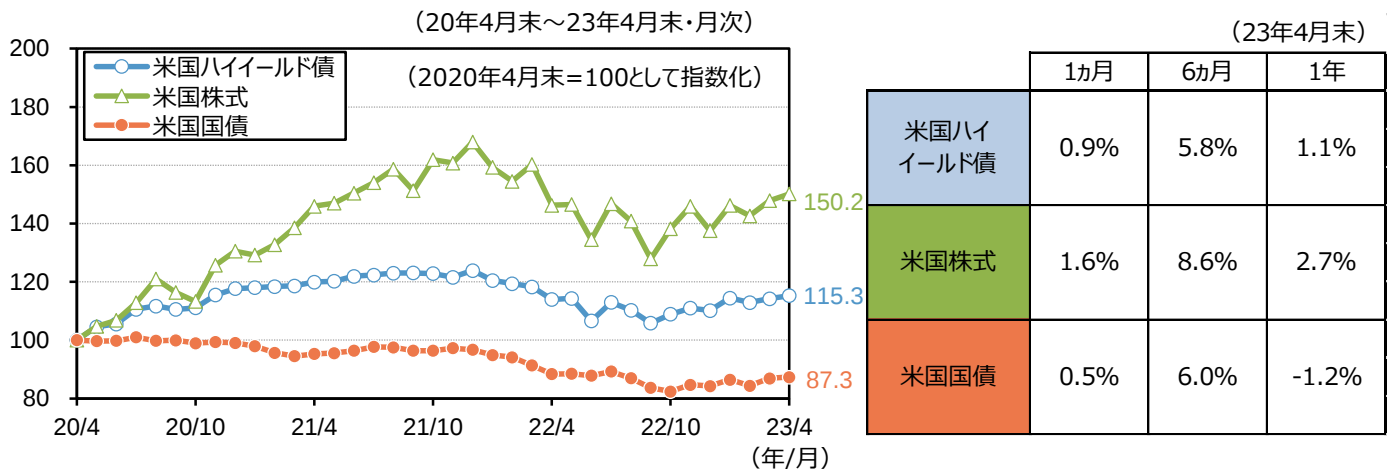
※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。

今後の見通し

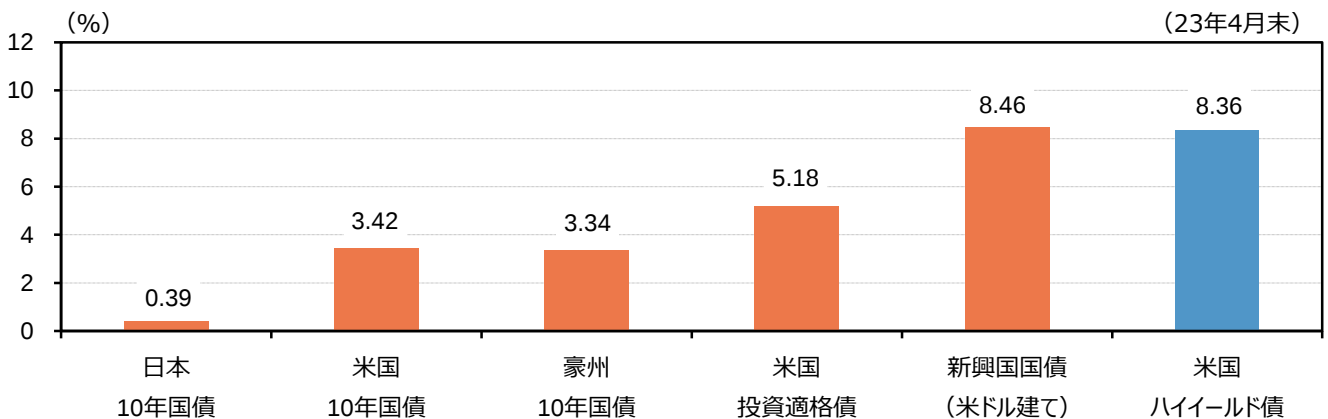
米国景気が深刻な後退局面を回避するとの見方は、米国ハイイールド債券市場を支えると考えられます。一方、FRBの利上げ継続を巡る不透明感が相場の下押し要因として考えられます。米銀行問題に伴う不透明感がくすぶる中、銀行の貸出基準が一段と厳格化すれば、米国ハイイールド債券市場ではデフォルトリスクが高まる可能性もあり、一定の警戒が必要です。FRBが4月に公表した地区連銀報告によれば、幾つかの地区において、銀行は貸出基準を厳格化したと報告されており、注意が必要です。

↑ プラス要因	・ 米経済は深刻な景気後退を回避できるとの見方
↓ マイナス要因	・ FRBの利上げ継続を巡る不透明感 ・ 米銀行問題に伴う懸念

各資産のパフォーマンスの推移と騰落率



主な債券との利回り比較



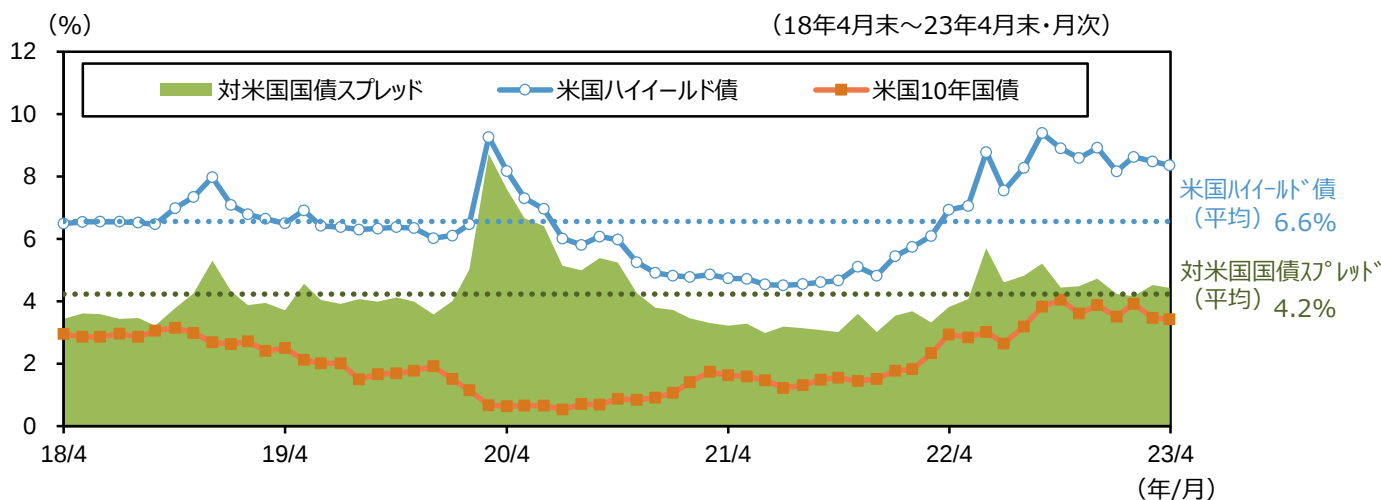
出所：ブルームバーグ、JPモルガンのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

※使用した指数はP.4「当資料で使用する指数について」をご参照ください。

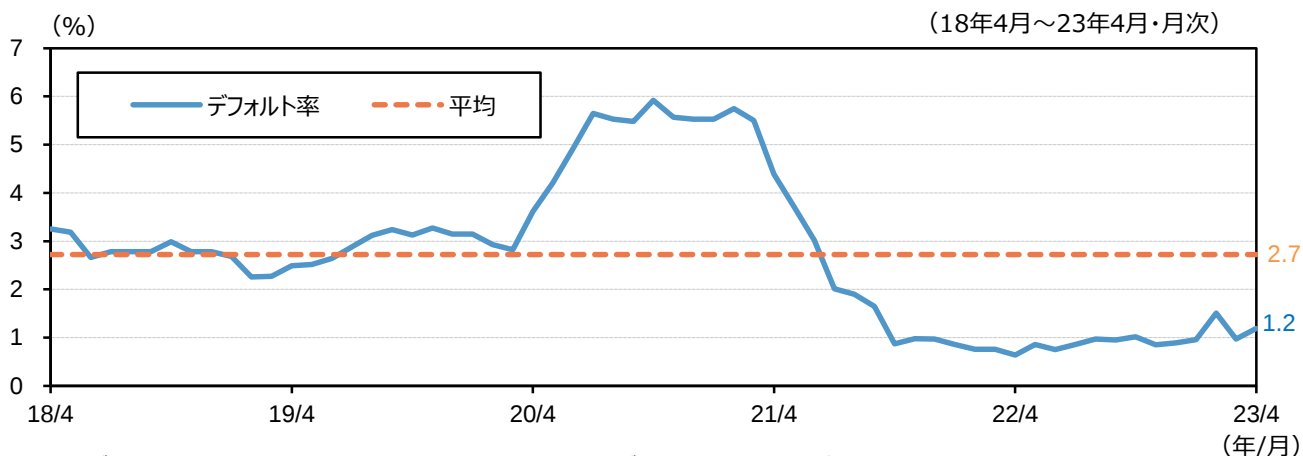
※上記は過去の情報または作成時点の見解であり、将来の市場動向を示唆・保証するものではありません。

※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。

米国ハイールド債、米国10年国債利回りおよび対米国国債スプレッドの推移

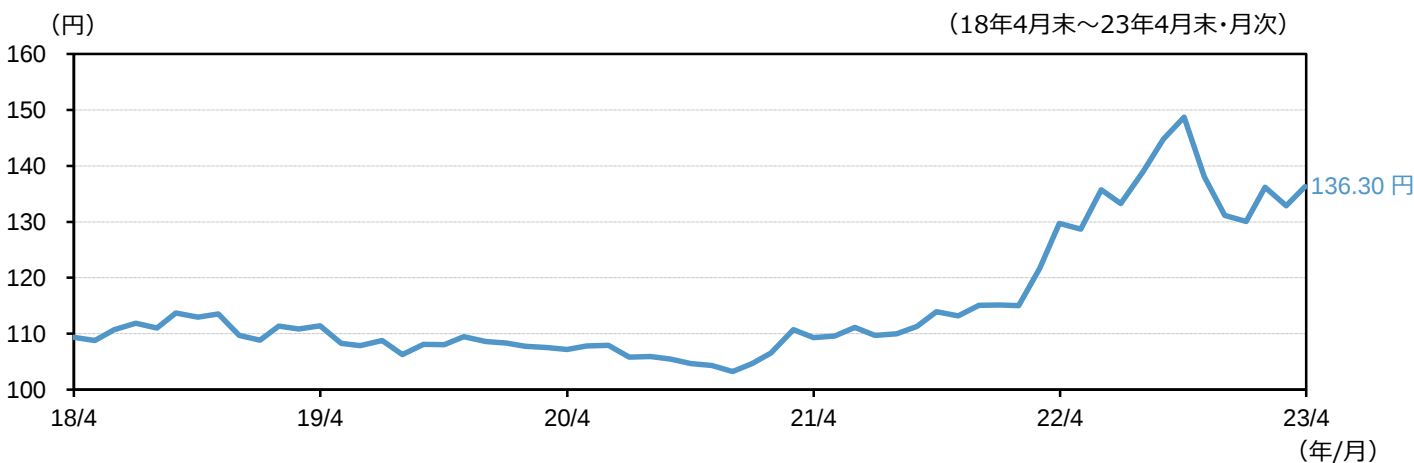


米国ハイールド債のデフォルト率*の推移



*デフォルト率は過去12か月間に米国ハイールド債市場においてデフォルトした銘柄数の割合を発行体ベースで算出したもの。

米ドルの対円為替レート*の推移



出所：ブルームバーグ、JPモルガンのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

※使用した指数はP.4「当資料で使用する指数について」をご参照ください。

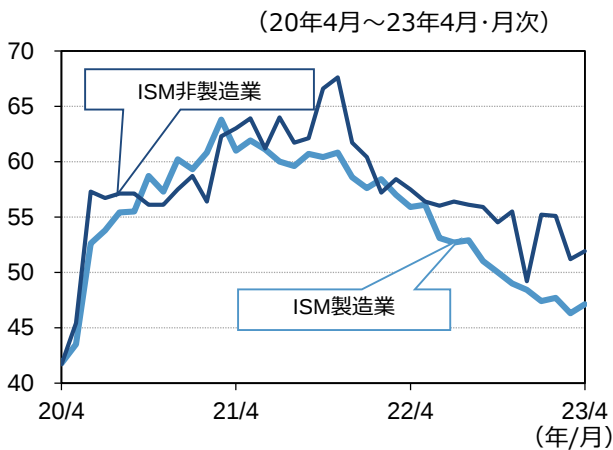
※上記は過去の情報であり、将来の市場動向を示唆・保証するものではありません。

※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。

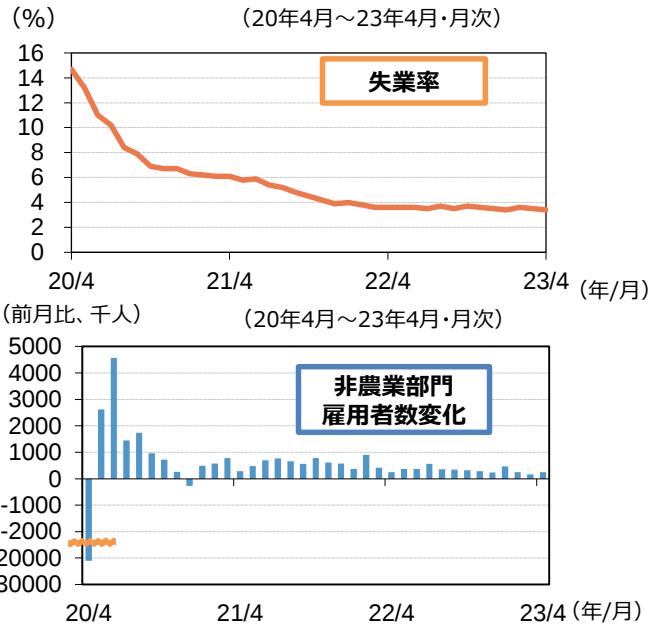
米国の製造業景気指数は予想を上回り2カ月ぶり上昇

4月の米供給管理協会（ISM）製造業景気指数は47.1と、市場予想の46.8（ブルームバーグ集計。以下、同じ。）を上回り、2カ月ぶりに上昇しました。前月の水準は2020年6月以降で最低でした。業種別では18業種のうち、5業種で拡大が報告されたのに対し、11業種で縮小が報告されました。同指数は生産や新規受注、雇用など幾つかの項目について製造業の購買担当者に対しアンケートを行い、その回答結果を集計したもので、50を上回ると景気拡大、50を下回ると景気縮小とされています。内訳をみると、景気指数を構成する5つの指数のうち、生産が2カ月連続で、新規受注が2カ月ぶりに上昇しました。雇用は4カ月ぶりに上昇しました。前月は2020年7月以来、2年8カ月ぶりの低水準でした。一方、物流の遅延を表すとされる供給業者の納入は2009年3月以来、約14年ぶりの低水準を記録したほか、在庫は2020年8月以来の水準へ低下しました。5つの構成指数以外では、物価動向を採るうえで注目される価格が昨年8月以降で最高となったほか、顧客在庫は2016年9月以来、約6年半ぶりの水準を回復しました。

ISM景況指数



雇用統計



米国の主な経済指標・イベント

経済指標・イベント	
5/12(金)	ミシガン大学消費者信頼感指数（速報）
16(火)	小売売上高
16(火)	鉱工業生産
17(水)	住宅着工・許可件数
18(木)	中古住宅販売件数
23(火)	新築住宅販売件数
25(木)	GDP（改定）
26(金)	耐久財受注（速報）

経済指標・イベント	
26(金)	ミシガン大学消費者信頼感指数（確報）
30(火)	S&P/ケース・シー住宅価格指数
30(火)	コンファレンスボード消費者信頼感指数
6/1(木)	自動車販売台数
1(木)	ISM製造業景況指数
2(金)	雇用統計
5(月)	耐久財受注（確報）
7(水)	貿易収支

【当資料で使用している指数について】

※日付は日本時間を基準としています。

- 米国ハイイールド債：ICE BofA・US・キャッシュ・ペイ・ハイイールド・インデックス ■米国株式：S&P500種指数（配当込み）
- 米国国債：ICE BofA・US・トレジャリー・インデックス ■米国投資適格債：ICE BofA・US・コーポレート・インデックス
- 新興国国債（米ドル建て）：JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・グローバル・ディバーシファイド

出所：ブルームバーグのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去の情報または作成時点の見解であり、将来の市場動向を示唆・保証するものではありません。また、上記表は作成日時点のものであり、予告なく変更されることがあります。

※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

〔ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。〕

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料： 上限3.85%（税込）

換金時手数料： 換金の価額の水準等により変動する場合があるため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額： 上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）： 上限 年率2.09%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料： 上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。
- 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。
- 投資信託は、
 1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。
 2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。
 3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

【指数の著作権等】

※ICE Data Indices, LLC（「ICE Data」）、その関係会社及びそれらの第三者サプライヤーは、明示又は黙示のいずれかを問わず、インデックス、インデックス・データ、及びそれらに含まれ、関連し、又は派生する一切のデータを含めて、商品性又は特定の目的若しくは使用への適合性の保証を含む一切の表明及び保証を否認します。ICE Data、その関係会社又はそれらの第三者サプライヤーは、インデックス、インデックス・データ若しくはそれらの構成要素の適切性、正確性、適時性又は完全性について、なんら損害賠償又は責任を負わず、インデックス、インデックス・データ及びそれらの全ての構成要素は、現状有姿において提供されるものであり、自らの責任において使用いただくものです。ICE Data、その関係会社及びそれらの第三者サプライヤーは、アセットマネジメントOne（株）又はその製品若しくはサービスを後援、推薦又は推奨するものではありません。

※S&P500種指数は、S&Pダウ・ジョーンズ・インデックスLLCまたはその関連会社の商品であり、これを利用するライセンスが委託会社に付与されています。S&Pダウ・ジョーンズ・インデックスLLC、ダウ・ジョーンズ・トレードマーク・ホールディングスLLCまたはその関連会社は、いかなる指数の資産クラスまたは市場セクターを正確に代表する能力に関して、明示または黙示を問わずいかなる表明または保証もしません。また、S&P500種指数のいかなる過誤、遺漏、または中断に対しても一切責任を負いません。

※JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・グローバル・ディバースファイドに関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。